



内定者の声

令和4年度入省予定 一般職自然系



| はじめに

環境省（自然系）に興味を持っていただいた皆様、こんにちは。

初めに、「内定者の声」を手にとっていただき、ありがとうございます！

本冊子は、令和4年度入省予定の一般職自然系の内定者が内定までに得た経験や思いをまとめたものです。

「環境」は私たち人間をはじめとした「生物」にとって必要不可欠な存在です。この「環境」に関連した業務（国立公園や野生生物の保護管理、外来生物への対策 等々）に従事しているのが、環境省の自然系職員（レンジャー）です。

今ご覧になっている皆様は、レンジャーについて興味を持っている方から既に志望されている方まで様々ではないでしょうか。この冊子では、私たち内定者が同じレンジャーという仕事を目指して歩んできた道のりや勉強法等が紹介されています。きっと、それぞれにとって役に立つ情報があるはずなので、ぜひ最後まで読んでください！

最後に、皆様におかれましては新型コロナウイルス感染症によって令和4年に行われる試験の日程や形式が変化する可能性を考慮しつつ、常に最新の情報を収集しながら、試験に備えていただければと思います。また、受験をする上で最も大切なことは体調管理だと思いますので、十分に注意してください。

本冊子が皆様の一助になれば、幸いです。

令和4年度環境省入省予定
一般職自然系内定者一同

| 目次

はじめに・目次	p. 2
基礎情報	p. 3-5
内定者概要（内定者ボイス・アドバイス編）	p. 6-38
巻末資料	p. 39
おわりに	p. 40

基礎情報

国家公務員一般職試験および内定までの流れ

注 下記の日程は令和3年度のものです。

最新の情報は人事院（国家公務員試験採用情報 NAVI）および環境省の HP を参照してください。

日時	人事院	環境省	ひとことメッセージ
令和3年 2月1日～	受験案内が HP に掲載		試験日程など内容をよく確認。
4月2日～ 4月14日	インターネットによる 受験申込受付期間		事前登録が必要。期日までに余裕を持って出願しよう。
6月13日	第1次試験(筆記)		服装は私服で OK。
6月18日		官庁訪問情報掲載	訪問者カードの様式も公開されます。官庁訪問予約時に提出が必要なため、早めに準備しよう。
7月7日 午前9時	第1次試験 合格者発表	官庁訪問予約受付開始	①人事院 HP で確認。後日、はがき(第1次試験合格通知書)が届く。 ②環境省 HP を確認。希望日と時間帯を記入しメールにて予約。試験日程や他省庁の官庁訪問日など、スケジュールをよく考えて申し込もう。
7月9日		官庁訪問 1日目	本省での対面面接。服装はクールビズで OK。(1～5日目のうちいずれかに面接。1～3日目の訪問者は1日で終了。4, 5日目の訪問者は Web 面接を受け、通過者のみ 6, 7日目に本省で対面面接。)
7月12日		官庁訪問 2日目	対面面接。
7月13日		官庁訪問 3日目	対面面接。
7月14日～ 8月2日	第2次試験(人物)		人事院の面接試験。 (第1次試験合格通知書で指定の日時・場所で実施)
8月10日		官庁訪問 4日目	Web 面接。
8月11日		官庁訪問 5日目	Web 面接。
8月12日		官庁訪問 6日目	対面面接。8/10、11の Web 面接通過者を対象。

8月13日		官庁訪問 7日目	対面面接。8/10、11のWeb面接通過者を対象。
8月17日 午前9時	最終合格者発表	採用内々定解禁 →最終面接の案内	① 人事院 HP で確認。後日、はがき(合格通知書)が送付。 ② 採用内々定と最終面接の案内がそれぞれ電話とメールで伝えられる。
10月1日		最終面接 →内定通知書授与	最後の面接。余程のことがなければ合格ができるらしいが、油断は禁物。クールビズ期間終了のため、服装はスーツ着用。

| 国家公務員一般職試験

・試験区分

環境省一般職自然系は、「建築」、「土木」、「農業農村工学」、「農学」、「林学」のいずれかの試験区分から採用されます。試験内容、配点、出題分野等の詳細や最新情報については国家公務員試験採用情報 NAVI の受験案内をご参照ください。

(国家公務員採用試験受験案内 <https://www.jinji.go.jp/saiyo/siken/jyukennannnaiichiran.html>)

・過去問の取り寄せ

各試験区分の過去問は人事院開示請求電子申請システムから入手することができます。

(人事院開示請求電子申請システムの窓口 https://ssl.jinji.go.jp/kaijiseikyu/kaiji_index.asp)

請求する行政文書の名称等の「国家公務員採用試験の過去の問題」にて必要な問題を申請しましょう。

例) 試験名：[一般職(大卒程度)]、試験の区分・請求年度等：[林学 試験問題集 平成〇～△年度]

※当年度の過去問は試験実施日の翌日から開示請求できます。

※試験問題の保存期間は5年間のため、最大5年分の問題を入手できます。

※開示方法は「人事院地方事務所等での開示(閲覧、写し)」or「送付(写し、CD データ(PDF形式))」から選択できます(CDデータがおすすめ)。

※過去問の取り寄せには下記のように時間がかかるので注意して下さい。

申請書送付 → (約1ヶ月後) 開示決定通知、同封の申出書を送付 → (1～2週間後) 過去問到着

｜官庁訪問

・官庁訪問とは？

国家公務員として採用されるには2種類の試験を突破する必要があります。1つは人事院が実施する試験で、いわゆる第1次試験、第2次試験のことです。試験内容は基礎能力試験・専門試験・人物試験等があり、試験に最終合格すると採用候補者名簿に記載されます。ですが、この時点では「採用候補者」であり道半ばです。採用に向けて突破すべきもう1つのステップが官庁訪問と呼ばれる、各府省庁等が個別に実施する面接・試験等です。ここでは、環境省が行う官庁訪問について説明します。

・令和3年度自然系官庁訪問について

官庁訪問の予約

年度により実施時期や予約方法が異なる場合があるため、最新の情報を必ず確認してください。令和3年度の場合、6月中旬に環境省HP（採用・キャリア形成支援情報 一般職自然系（大卒程度））上で予約方法が公開され、人事院の第1次試験の合格発表と同時に官庁訪問の予約が解禁されました。今年度はスケジュールが7月と8月の2つ用意されており、それぞれで受付期間は異なりました。電子メールによる事前予約制で、面接実施日5日間のうちの第一・第二希望日ほか必要情報を指定のアドレスに送信しました。

面接の形式

面接形式も年度により異なり、その詳細は受けてみないと分かりません。令和3年度の場合は、2つのスケジュール(7月と8月)で大きく異なりました。7月グループは1回目の面接から環境省本省での対面面接で、1日に複数回の面接が行われました。8月グループは1回目の面接はオンライン面接で、その面接に通過した受験者のみ、本省での対面面接が行われました。

なお、訪問者カード(環境省採用HPから様式をダウンロード、3×4cm写真貼付)は、官庁訪問予約時にメールに添付して送信しました。本省入館の際は「写真付きの身分証明書(学生証など)」が必要です。

｜参考サイト

試験や官庁訪問に関する最新の情報は人事院や環境省のHPでご確認ください。

○人事院HP 国家公務員試験採用情報 NAVI

<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>

○環境省HP 採用・キャリア形成支援情報 一般職自然系(大卒程度)

http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_ra3/index.html

| 内定者の概要

	A	B	C	D
最終学歴	大学卒業見込み	大学卒業見込み	大学院卒業見込み	大学卒業見込み
性別	女	男	女	女
併願先	なし	国家総合職・地方上級	国家総合職・林野庁 地方上級	国家総合職・地方上級・市役所・大学法人・民間企業
専攻科目	獣医学（疫学）	動物生態学	海洋生態学	風景計画学
試験区分	農学	農業農村工学	林学	林学
インターンシップ	自然系WEB説明会	なし	なし	自然公園財団 上高地でのインターンシップ
趣味	少林寺拳法・着物	釣り、ツーリング	サイクリング	水泳 ボードゲーム 旅行
学生時代打ち込んだこと	文武両立	勉強	離島での野外調査	委員会活動

	E	F	G	H
最終学歴	大学院卒業見込み	大学院卒業見込み	大学院卒業	大学卒業見込み
性別	女	男	男	男
併願先	林野庁・地方上級	地方上級	地方上級	地方上級・民間企業
専攻科目	生態学	環境応答学	森林生態学	生態工学
試験区分	林学	林学	林学	林学
インターンシップ	環境省希少種保全推進室・環境省伊豆諸島管理官事務所	なし	なし	なし
趣味	登山・温泉巡り・ヴァイオリン	登山・読書	登山・写真撮影	登山・読書
学生時代打ち込んだこと	ワンダーフォーゲル	NPO	部活	サークル活動

	I	J	K	L
最終学歴	大学卒業見込み	大学院卒業見込み	大学卒業見込み	大学卒業見込み
性別	男	男	女	男
併願先	国家総合職・林野庁 地方上級	国家総合職・民間企業 研究機関	林野庁・地方上級	林野庁・独立行政法人 環境コンサル
専攻科目	森林遺伝学	数理生物学	環境学	群集生態学
試験区分	林学	林学	林学	林学
インターンシップ	なし	なし	なし	WEB図鑑編集
趣味	登山・旅行・お酒	登山・自然観察	登山・旅・音楽鑑賞	生き物観察・撮影
学生時代打ち込んだこと	様々なところへ行く	興味や関心の幅を広げること	ゼミ活動・委員会活動	フィールドワーク

	M	N	O	P
最終学歴	大学院卒業見込み	大学卒業見込み	大学卒業見込み	大学卒業見込み
性別	男	女	女	男
併願先	国家総合職・地方上級 民間企業	国家総合職・地方上級 大学法人	なし	国家総合職
専攻科目	保全生態学	緑地情報学	水利環境学	河川工学
試験区分	林学	林学	林学	林学
インターンシップ	なし	自然公園財団での国立公園の整備活動等	中部地方環境事務所	なし
趣味	読書・生物観察	旅行・水族館巡り・映画鑑賞	イモリ飼育・タカラガイ収集	サッカー・自然散策
学生時代打ち込んだこと	卒論と修論に関連した研究活動	環境系の委員会活動	ジャズ・研究活動	写真撮影

内定者ボイス・アドバイス編

内定者 A の場合

プロフィール

- 【最終学歴】 大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】 大学6年・女・24歳
- 【参加した説明会・回数】 自然系採用説明会（WEB）複数回
- 【併願先】 なし
- 【試験区分】 農学 【専攻科目】 獣医学（疫学）

志望動機

中学時代に渡米し、現地の学校でレンジャーについての話を聞いたときから野生動物に関心を持っていました。大学入学後は、野生動物医学会の活動やオーストラリア留学を通して野生動物の保全について学び、自然環境や希少生物の保全に貢献したいと強く思うようになりました。また研究室では感染症の拡大について学び、また人、動物、環境の分野を横断する One Health の重要性を知りました。こうした経験から、獣医師として自然環境の保全と健康的な社会の維持にかかわる仕事をしたいと考え、環境省を志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

専門試験に力を入れていたため、あまり多くの時間を割くことはできませんでした。そのため、特に文章理解と数的処理・判断推理、資料解釈に重点を置いて過去問を解きました。数的処理・判断推理については考え方のパターンを学ぶ必要があったため、参考書も使って過去問で実際に出ているパターンを重点的に学習しました。

・専門試験

主に「スーパー過去問ゼミ」を中心に繰り返し学習しました。農学のほとんどの分野については独学だったため、「農学の基礎セミナー」シリーズを参照しながら参考書の問題を解きました。参照した中で重要な内容は解説に付け加えて参考書に書き込み、周回するうちに頭に入るようにしていました。また、過去問は学習し始めた時に全体像の把握のために1年分解き、直前期に改めて5年分を解きました。

記述試験の対策では、「食料・農業・農村白書」を読みました。考えを簡潔に表現できるよう、文章の構成をあらかじめ決めておき、それを埋められるように箇条書きで情報をまとめました。気になったトピックについては、実際に記述してみて感覚をつかみました。

・二次面接&官庁訪問

大学のキャリアセンターの方に履歴書添削をしてもらい、志望動機と自己PRの方向性を固めました。

訪問者カードに記載したことを印刷し、付箋で理由の掘り下げや追加の情報を貼って自分の考えを整理しました。また、「環境白書」を読んで気になったトピックについて自分なりの考えを整理しました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

5年次の半ばから説明会には参加していましたが、環境省を志望することを決意し勉強を始めたのは2021年1月ごろと遅れていました。そのため、勉強が間に合わないかもしれない不安や焦燥感がありましたが、自分の学習状況をきちんと可視化して向き合いました（参考書の目次をコピーして進捗に応じてチェックマークを入れる、など）。

↓アドバイス

勉強することが多くて焦りもあるかもしれませんが、少しずつでも進めていけば必ず力になります。私の場合は、試験項目ごとにしっかりと勉強するよりは、すべての項目を少しずつ勉強した方がうまくいきました。

また、様々な選択肢を知ることが大切だと思います。少しでも興味のある職業については情報収集や見学、実習をしておく、自分の将来を考えるうえで非常に参考になります。選択肢を広げておくことで気持ちの余裕も生まれますし、自分の興味や適性を見つめなおすことができるので、少しでも迷っている方は検討してみてください。

最後になりますが、みなさまの健闘をお祈りしています。気持ちで折れないよう、自分のメンテナンスを忘れずに頑張ってください！

内定者 B の場合

プロフィール

- 【最終学歴】 大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】 大学 4 年・男・22 歳
【参加した説明会・回数】 自然系採用説明会 (WEB) ・5 回
【併願先】 国家総合職・地方上級
【試験区分】 農業農村工学 【専攻科目】 動物生態学

志望動機

私が環境省を志望した理由は大きく分けて2つあります。1つ目は、人と生き物のより良い環境を作り、保つ仕事がしたいからです。私は幼い頃よく近所の川で釣りをしていました。ある時、そこで河川工事が行われ魚が釣れなくなってしまいました。幼心ではありますが、当時非常に悔しく、悲しい思いをしました。このことから、人間の利益だけではなくその周辺の環境にも配慮しなくてはならないと考えました。

2つ目は、多くの人に自然や生き物に興味を持ってもらうきっかけを作りたいからです。私は、毎年近所の川で行われている清掃ボランティアに参加をしています。ポイ捨て禁止の看板などがあるのにもかかわらず、毎年清掃をしても翌年にはとても多くのゴミが出ます。このことから自然が好きな人たちだけで活動をするのではなく、自然に興味のある人を増やすことが重要だと考えました。

以上の理由より、人と生き物のより良い環境を作り保つこと、多くの人が自然に興味を持つきっかけを作ることのできる環境省を志望致しました。

勉強方法

・基礎能力試験

私は、高校受験も安全圏で大学受験も指定校推薦だったため今まで受験勉強をしたことがなく、とても不安に感じていました。国家一般職の教養試験は年によって多少変わる時もあるかもしれませんが、国語 6 問・英語 5 問・数的 16 問・暗記系が 13 問になっています。このような内訳となっているため範囲をかなり絞り、この中から外せないものと点数の取りやすそうな科目のみを対策しました。

具体的に外せないものとしては問題数が多い数的です。数的の多くは時間をかければ解けるものが多いと思いますが、試験は時間との勝負なのでもし時間がかかってしまう単元などがある場合は数的の参考書等の解法を覚えてしまったほうがいいのかもかもしれません。

次に点数の取りやすそうな科目は私の場合、国語と暗記系の地理・思想・生物でした。特に地理・思想はおすすめです。地理の場合、気候や農産物といった身近なものが出題されていることが多いので頭に入りやすかったです。思想は他の科目に比べ範囲が狭く内容も限られていることが多いです。

・専門試験

主に過去問と学校の授業の復習を行いました。農業農村工学の専門試験は大きく分けて数学・力学・暗記系に分かれます。数学と力学分野の対策は授業の内容でも十分なのかもしれませんが、農業農村工学

の対策本は非常に少ないため土木職のものを利用することをお勧めします。暗記分野では、農業農村工学必携という本が必須だと思います。基本的に試験の選択肢では極端に数値が異なっていたり、Aのものとの説明内容がBの内容だったりというものが多いため、ざっくりと理解することが重要だと思います。また、過去問の間違っている選択肢のどこが間違えているのかを農業農村工学必携で調べながらやる勉強法が良いと思います。

・専門記述

主に過去問と食料・農業・農村白書を利用しました。過去問を見ると例年同じようなことを聞かれているため、そこを重点的に自分の意見を考えながら学習しました。また、専門試験の勉強がある程度済んだから記述の勉強をすると、書きやすいのではないかと思います。

・二次面接&官庁訪問

面接対策はしていません。日頃から考えていること、どういう経緯で今までの活動をしたのか、またそこから何を学び・考えたのか失敗談も包み隠さず話しました。

意識したことは、2つあります。1つ目は学校の先生や親戚などと話してみたいに面接官の方と楽しく話すことです。2つ目はなぜレンジャーになりたいのか、どういうレンジャーになりたいのかを真っ直ぐに熱意を持って正直に伝えることです。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

大学1年の6月ごろから、レンジャーになりたいと思ったため1、2年次のうちから色々な国立公園に遊びに行き自分の目で国立公園の魅力等を見ていました。3年次では10月ごろからの筆記対策と並行して民間企業のインターンや説明会等に参加をし、なぜレンジャーなのかを明確にすることを心がけていました。また、私が通っている大学の学科は農業農村工学をメインとしているため専門試験と似た問題が期末試験でよく出るので、大学の勉強もかなり力を入れました。

アドバイス

色々な経験をすることが大切だと思います。一見関係なさそうなことでも、面接のネタになったりします。また、レンジャー以外の職業も説明会等で勉強していくうちにどうしてレンジャーなのか具体的なようになっていくのではないのでしょうか。

最後に大学に入るまでほとんど勉強をしたことのない私が内定を頂くことができたのは、レンジャーという仕事を知ってから目標を持ち日頃の意識を変えられたからだと思います。「内定者の声」を読んでいる方々には私と同じような境遇な人もいるかもしれませんが、諦めずに挑戦をしてほしいと思います。後悔のないよう全力で頑張ってください！！

内定者Cの場合

プロフィール

- 【最終学歴】大学院卒業見込み 【学年・性別・年齢】修士2年・女・24歳
【参加した説明会・回数】WEB説明会・2回ほど
【併願先】国家総合職、林野庁、地方上級
【試験区分】林学 【専攻科目】海洋生態学

志望動機

大学の講義や様々なニュースを見聞きする中で、環境保全と経済活動がトレードオフの関係にある事例が多くあることを知り、環境問題解決の難しさを感じました。そこから、個人でできることは限られているけれど、国で働くからこそできることは多いのではないかと思い始めました。

本格的に志すきっかけになったのは、大学の卒業研究のために訪れた離島で環境省職員の方々と出会ったことです。激減した海鳥を再び島に呼び戻す活動を行っていました。仕事内容や、島民の方々との関係性を魅力を感じ、興味を持ちました。また、環境省職員として環境問題に関われば、何かできるのではないかと思い受験を決めました。

勉強方法

・基礎能力試験

本格的に勉強を始めたのは受験の約半年前と、非常に遅いスタートでした。手始めに過去問を1年分解いてみると、そこまで酷い点数ではなかったためあまり時間は割きませんでした。また、学んだことのない専門試験の方に残りの少ない時間を使った方が得策だと考えました。とにかく時間がなかったため、勉強は判断推理と数的推理に絞りました。幸い、判断推理に出るような問題は好きだったため、専門の勉強に飽きた時に気晴らしに解いていました。本番は時間がなくて焦るため、普段から時間を計って緊張感を持って練習しておくべきだったと思います。

・専門試験

完全に専門外でしたので0からのスタートでした。内定者の声を参考にして、ひたすら『森林・林業白書』を読みながら過去問をときました。最初は何一つ分かりませんでした。2-3年解いていくと、「またこの問題か」と思えるようになっていきました。出題される箇所はほとんど決まっているため、そこは確実に抑えるようにしました。あとは、散歩中に見つけた木について、歩きながら周辺知識(用途や害虫など)を思い出したりしていました。白書や『森林・林業実務必携』を読んでもわからなかった分野(砂防工学など)については全く勉強しませんでした。他の箇所がきちんと得点できれば十分戦えます。

・専門記述

特別対策はしませんでした。3日前くらいから白書の索引のページを見て、その単語の説明文を作っ

たり、周辺知識をできるだけ書き出してみたりしました。

・二次面接&官庁訪問

自己分析や面接の準備は、『現職人事が書いた〜』シリーズを見ながら行いました。意見は色々ありますが、私個人としてはとても参考になりました。志望動機やその他の予想される質問に対する答えを考えるときは、「環境省がどういう人材を求めているのか」を考えるようにしていました。第一志望である環境省の官庁訪問が、就活で初めての面接になってしまうのが不安だったため、練習のために総合職も受験しました。回数を重ねるごとにどんどん余裕が生まれるのを感じたので、出来ることなら多くの実践を積んだ方が良いと思います。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

新聞やHP、TwitterやYouTubeなど、様々な媒体から情報収集するようにしていました。また、環境省について知るためにOB・OG訪問をしたのが非常に良かったです。1対1なので本当に聞きたいことも気軽に聞くことができました。

また、就活中だからといって普段の生活を大きく変えることはしませんでした。趣味の散歩もいつも通り行っていたため、ストレスを溜めずに取り組めたと思います。

アドバイス

私は受験を決めたのが受験の約半年前と、非常に遅いスタートでした。短い勉強時間で合格できたのは、勉強において取捨選択ができたからだと思っています。全くわからない分野があると不安に感じますが、満点を取る必要は全くありません。自分の得点源(勉強しなくても得点できるところ、勉強したら確実に点が取れるだろうところ)を見つけたことが自信になりました。専門外でも、試験が半年後でも、合格は高すぎるハードルではないと思います。

面接や官庁訪問では、「プロ相手に素人の浅はかな考えを話すなんて恐れ多い」と思っていたのですが、そんなこと考える必要は全くないと思います。一生懸命考えてきたことなのだから堂々と話すべきです。そのために白書を読んだりニュースを見たり本を読んだり、出来ることはたくさんあります。悔いの残らないように頑張ってください。

内定者Dの場合

プロフィール

- 【最終学歴】 大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】 学部4年・女・22歳
【参加した説明会・回数】 自然系採用説明会(WEB)・複数回
【併願先】 国家総合職・地方上級・市役所・大学法人・民間企業
【試験区分】 林学 【専攻科目】 風景計画学

志望動機

いつから志望していたのかはっきりと覚えていませんが高校生の時に「レンジャーになろう」という本を読んだことを覚えています。そして気付いたら大学1年次には環境省に行きたいと周囲に宣言していました。決め手は国立公園に関する授業がきっかけだったように思います。そのまま3年次には学内の公務員講座を受講し民間やほかの自治体なども受けつつ環境省を目指しました。

勉強方法

・基礎能力試験

公務員講座を利用して授業の視聴や教材を繰り返し読むことで知識を得ました。また、過去問を解き受験先の出題傾向を掴むようにしていました。

・専門試験

森林自然環境と林学を独学で勉強しました。白書をじっくりと読み、過去問を5年分、3周ほど取り組み解説を書き込んでいました。実務必携も用いました。

・専門記述

専門記述については10年分の過去問を見て傾向を分析しました。グラフなども覚えておくといいと思います。

・二次面接&官庁訪問

2次面接

特段変な言動をしなければ通ると聞いていたのでハキハキ話すことと笑顔を心がけていました。

官庁訪問

自身の経験から何を考えどう貢献したいかを考えておきました。環境省への愛を伝える場面だと感じました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

官庁訪問後の内々定から内定まではどこに勤務したいか考えていました。

↓アドバイス

受験生の中には大学卒だと院卒より合格しづらいのではないかと不安になる方もいると思います。しかし今年度も大卒も何人かいますし不安になる必要はありません。自分が持つ熱意をしっかりと伝え、内定を勝ち取ってください！

内定者 E の場合

プロフィール

【最終学歴】 大学院卒業見込み

【学年・性別・年齢】 修士 2 年・女・23 歳

【参加した説明会・回数】 WEB 説明会・2 回、インターンシップ

【併願先】 林野庁、地方上級

【試験区分】 林学

【専攻科目】 生態学

志望動機

国立公園の保護と活用を通じて、生物多様性保全および地域振興に携わりたいと考えたためです。幼少期の自然体験や大学でのワンダーフォーゲル部の活動を通じて国立公園の美しさに魅了され、この景色を後世まで残したいという思いを持ちました。環境省でのインターンシップに参加し、レンジャーの方が、関係機関や地域住民と信頼関係を築き、地域の自然的、社会的条件に応じて多様な自然環境を保全していることを目にしました。人と自然はもちろん、人と人とを繋ぐことを大切にしている点や、自然に関する幅広い業務に携わることができる点に魅力を感じ、環境省を志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

10 月から勉強を始めました。はじめに過去問を解き、力を入れる分野と目標点を決めました。私の場合、一般知能に絞って勉強をしました。数的推理、判断推理、資料解釈は、『畑中敦子のザ・ベストプラスシリーズ』で問題を解き、解法パターンをノートにまとめることで、重点的に理解を深めました。試験 1 ヶ月前からは『スーパー過去問ゼミ』で文章理解を毎日解き、速読に慣れました。また、隔週で過去問を用いた模試をして、焦らないで解く練習をしました。

・専門試験

10 月から過去問を少しずつ解き、4 月から本格的に勉強を始めました。はじめに『森林林業白書』を読み込み、林業の現状、動向、課題、対策をノートにまとめました。その後、多岐選択は、過去問 5 年分を分野ごとにノートに貼って解き、理解不足な部分は『森林林業実務必携』と『森林林業白書』を参考にまとめ、理解を深めました。記述試験は、過去問 5 年分を読んで傾向を掴み、白書のまとめノートを基に解答パターンを作りました。試験 1 ヶ月前から隔週で過去問を用いた模試をして、習熟度や時間配分を確認していました。

・二次面接&官庁訪問

2 次試験と官庁訪問は、1 次試験後に対策を始めました。面接カードは、周囲に添削をお願いし、気になる点を修正しました。面接は、面接カードを基に想定質問集を作りました。また、ヤングハローワークの模擬面接に通っていました。民間企業を受験しておらず、実践経験がなかったため、様々なパターンで何度も訓練しました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

勉強や面接練習に行き詰ったら筋トレや散歩をして気分転換をしていました。

↓アドバイス

大学3年生から進路ノートをつけていました。環境省の説明会やインターンシップをはじめ、興味を持った講義や実習、体験、新聞記事などの詳細や感想を書き留めていました。進路選択や自己分析、志望動機でとても役立ちました。ささやかながら、みなさまのご健闘をお祈りしております。

内定者 F の場合

プロフィール

- 【最終学歴】 大学院修了見込み 【学年・性別・年齢】 修士 2 年・男・24 歳
【参加した説明会・回数】 自然系採用説明会 (WEB) ・1 回
【併願先】 地方上級
【試験区分】 林学 【専攻科目】 環境応答学

志望動機

自然環境の保全や持続可能な利用に貢献したいと思い志望しました。趣味や研究室の活動でフィールドに出た際に、シカの食害や外来種の侵入によって荒廃した生態系を目の当たりにし、野生生物の保護や管理の重要性を実感しています。学生時代は NPO に所属し、生態学について学ぶとともに防災林の植樹活動に携わりました。活動の中で地域の方々との意見交換や共同作業など経験し、持続可能な保全・管理を目指す上では地域の人々との相互理解が欠かせないことを学びました。

勉強方法

・基礎能力試験

大学の公務員講座を利用し 2020 年の 8 月頃から対策を始めました。暗記科目は後から始めても間に合うと考えて、先に数的処理や文章理解の対策を始めました。過去問や問題集は 1 問あたり 5 分以内に解くことを意識し、時間がかかった問題や間違った問題については復習を重ねました。暗記科目の対策は、出題の多い社会科学を重点的に行い、人文科学や自然科学は高校や大学で学んだ範囲の復習程度にとどめました。

・専門試験

2021 年の 1 月頃から対策を始めました。利用したのは過去問 (5 年分) と「森林・林業実務必携」、「森林・林業白書」です。林学の基礎知識は実務必携、林業や森林のデータは白書で勉強しました。出題箇所には傾向があるため、実務必携と白書を参考にして過去問の詳細な解答をノートにまとめると効率的です。記述の問題が白書のある一章から丸々出題されていることもありました。

・二次面接&官庁訪問

自己分析をして、想定される質問やエピソード等をノートにまとめていました。国家公務員でしかできないこと、環境省でしかできないことを特に意識するようしていました。面接の練習は大学の公務員講座や就職相談室を利用していました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

研究と勉強を交互に、片方が詰まったら気分転換にもう片方をやるような形で過ごしていました。一番気を遣ったのは情報収集だと思います。コロナ禍ということもあり、面接が急遽オンラインになるなど、志望先からのメールやホームページのチェックは欠かせませんでした。

↓アドバイス

面接は場数でかなり変わってくるので練習は早い内から始めた方がいいと感じました。合わせて一般職志望でも、総合職試験を受けることをおすすめします。試験本番の雰囲気も分かるので予行演習にもってこいだと思います。是非本番で100%の自分自身が出せるよう頑張ってください。

内定者 G の場合

プロフィール

- 【最終学歴】 大学院卒 【学年・性別・年齢】 既卒・男・29 歳
【参加した説明会・回数】 自然系採用説明会（WEB）・2 回
【併願先】 地方上級
【試験区分】 林学 【専攻科目】 森林生態学

志望動機

私は幼い頃から植物や登山が好きで、大学では森林生態学を専攻しました。その中で自然環境と共生した社会の実現に取り組みたいという思いを抱くようになりました。これまで環境コンサルタントやアクティブ・レンジャーとして勤務する中で、環境省であれば直接的な自然環境の保全だけでなく、自然公園法に基づく規制や国立公園の利用推進といった側面からも、持続的な自然と人の関係性を探求することができると思え、志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

落ち着いて解けば正答しやすいと感じた文章理解（現代文）・資料解釈・判断推理・数的推理で得点を稼ぐ作戦を立てました。勉強は前年秋頃から、判断推理について『スーパー過去問ゼミ』で問題の形式を把握し、『速攻の時事』を読み進めました。試験当日は時間との勝負なので、詰まらずに解けそうな問題から手を付けることを心掛けました。

・専門試験

前年秋頃から、先輩方の勉強法を踏襲して過去問を1問ごとにノートに貼ってまとめたり、『森林・林業白書』を読み進めたりしていました。白書のほかには『森林・林業実務必携』を参照したり、図書館やwebで調べたりしました。試験範囲を網羅することは厳しいと考え、過去問の傾向をもとに頻出問題に絞って勉強するよう心掛けました。こちらは試験当日に時間が足りなくて問題が解ききれないということはないと思います。

・専門記述

実は昨年度も受験していましたが、その時は全く対策していなかった専門記述で基準点に届かず不合格でした。試験時間に余裕がなく文字数が明らかに少なくなってしまったことや、そもそも解答に必要な知識が不足していたことが反省点でした。今年は過去問9年分の中から出題傾向の異なる3年分の解答答案を作成し、類似問題にも使えそうなキーワードをまとめる対策を行いました。試験当日は用意しておいたキーワードをもとに記述していきましたが、それでも時間ギリギリの解答でした。

・二次面接&官庁訪問

二次面接は基本的に面接カードから質問されるので、あらかじめ聞かれそうなことは想定しておきました。あとは国家公務員としての心構えを意識して、丁寧にはっきりと答えることを意識しました。官庁訪問では環境省職員として貢献できること等、アピールしたい自分の強みを訪問者カードに記入することを心掛けました。訪問時は日頃から考えていることをベースに落ち着いて受け答えする感じで、個人的にはとても話しやすかったです。

↓アドバイス

過去の内定者の声やその他 web からまず情報を収集して対策を立てました。恥ずかしながら十分に試験勉強をしたとは言えませんが、情報をもとにして無駄を少なく準備できたかなと思います。官庁訪問においては、環境省での実際の仕事が具体的にイメージできているか、その中で自分がやりたいことは何か、といった点を前々から考えておくことが大事だと思います。ご一読ありがとうございます。みなさんのご健闘をお祈りしております。

内定者Hの場合

プロフィール

【最終学歴】 大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】 学部4年・男・22歳
【参加した説明会・回数】 自然系採用説明会(WEB)・2回
【併願先】 地方上級・民間企業
【試験区分】 林学 【専攻科目】 生態工学

志望動機

国立公園の管理等の仕事を通じて、自然環境の保全に貢献していきたいと考え、志望しました。幼い頃から自然に囲まれて育ち、高校在籍時は山岳部に所属していたこともあり、自然に関わる仕事に関心を持つようになりました。

また、大学の研究室の調査等で大山国立公園に入る機会が多く、国立公園の自然の豊かさに感銘を受けました。その後、自然保護官の仕事を知り、自分のやりたい仕事ができると考え、環境省を志望するようになりました。

勉強方法

・基礎能力試験

試験対策は3年生の6月から始めていましたが、本腰を入れて取り組んだのは4年の4月からです。基礎能力試験は全体の配点が低いため、出題頻度の高い数的処理や資料問題を中心に勉強していました。

・専門試験

専門試験に関しては、3年生の2月ごろから対策をはじめました。主に森林林業白書や森林林業実務必携、及び国家公務員の過去問を用いて行いました。はじめに過去問を解き、その後間違えた問題を白書や実務必携を用いて確認し、ノートまとめ等に取り組みました。

試験直前時期は、同じ林学の試験を受ける研究室の同期と問題を出し合ったりして、知識が定着しているか確認していました。

・専門記述

専門記述に関しては、これといって特別な対策は行いませんでした。専門試験の対策に取り組むうちに、自然と記述の知識もついてきたと感じました。

やはり白書と実務必携を読み込むことが重要だと思います。

・二次面接&官庁訪問

官庁訪問前には、自分が環境省で働きたい動機や、学生時代の経験をどう仕事で活かせるのかを答えられるように練習しました。

また、私は緊張すると早口になってしまうため、できるだけゆっくり落ち着いて話す練習も行いまし

た。

二次面接に関しては、私の場合二次面接の前に官庁訪問があったため、特に緊張することなく臨めました。

面接はほぼ事前に提出した面接カードの内容に沿って行われるため、記述している内容をしっかり答えられるように練習しました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

できるかぎり様々なニュースに触れるように努力しました。また、環境省に関わりのある研究室の先生やOBの方から仕事内容や民間企業との関わり等のお話を聞きました。

↓アドバイス

やはり学生のうちから様々なことを経験することが、自身の視野を広げる上でも重要だと感じました。文章や動画等の媒体だけで学ぼうとするのではなく、実際に自分が体験することでしか得られないものが多いと思います。

私も、就職活動を通じてそのことを強く実感しました。

公務員は他の民間企業と比較しても採用までのプロセスが長く、辛いことも多々あると思いますが、その経験は必ず後の人生で生きてくると思います。

みなさんのご健闘をお祈りしております。

内定者 I の場合

プロフィール

- 【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】学部4年・男・23歳
【参加した説明会・回数】合同業務説明会・オンライン1回、対面1回
【併願先】国家総合職、林野庁、地方上級
【試験区分】林学 【専攻科目】森林遺伝学

志望動機

大学1年生の時に長野県内の北アルプスを一週間かけて縦走した際、その奥深さ、美しさに感動し山地環境をはじめとする国内の自然を管理・保全する仕事に就きたいと思うようになりました。その後、北海道から九州までの各地に登山や旅行などで訪れ、日本の自然環境の多様さを実感しました。また、北アルプスの登山施設でアルバイトをするなかで、自然の中で様々な人が働いていることを実感し、その一つとしてレンジャーの存在を知りました。このような経験から、全国の国立公園を中心に自然環境の管理・保全を幅広く行っている環境省を志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

配点は専門試験に比べて低いのでそこまで重要視せずに、専門試験勉強の息抜きと思って勉強しました。

最初に過去問を数年分解きました。その時点である程度点数が取れていた分野は伸びしろが少ないので対策はせず、できていなかった分野（自分の場合は数的処理・判断推理）のみ集中的に対策しました。

・専門試験

2月頃から本格的に始めました。5年分くらいの過去問を、分野ごとにまとめて解きました。過去問を解いた後に『森林・林業白書』、『林業実務必携』、インターネット等を見ながら知識や用語をノートに書き出して整理しました。元林学職員の方がボランティアで開催されていた勉強会に参加していた（3月末～6月）ので、分からない点などはその際に質問しました。

大学で専門試験の分野を勉強されている方は、講義をしっかり受ける、講義のノートやレジュメ等をちゃんと保存しておくのも、れっきとした試験対策になると思います。

・専門記述

特別な対策はしませんでした。専門選択の勉強の際に、用語だけ暗記するのではなく、白書に載っているグラフや表とセットで理解することで、記述対策にもなると思います。

・二次面接&官庁訪問

二次面接

普段早口なので、ゆっくり話すことを心掛けました。

初めてで全くできなかつたと感じた総合職の二次面接と、とても手ごたえを感じた一般職の面接結果とが同じ評価だったので、正直よく分かりません。

官庁訪問

面接カードを複数の人に見てもらい、内容から想定される質問などを一緒に考えてもらいました。質問に対する返答を一言一句暗記するのではなく、キーワードだけ覚えて会話の中で組み立てるように練習しました。

実際の官庁訪問では「自分らしさ」と「分かりやすさ」を意識しました。また、面接といえども、人と人とのコミュニケーションなので会話を楽しむことにも心掛けました。

待ち時間は隣の日比谷公園を散歩していました。天気が良ければリフレッシュできると思います。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

大学在学中は「やらない後悔よりもやった失敗」というスタンスで、好きなことや興味があることは妥協せずにやってきたと思っています。そのために、卒業が遅れたりもしましたが、その時の経験が面接のネタにもなったと思います。

↓アドバイス

今は、先行き不透明で色々と不安だと思います。しかし、試験日程や過去問、面接体験談等を具体的に調べていくうちに、不安感は少なくなっていくと思います。就職活動の全容を把握したうえで、自分のペースで進めていけば良いと思います。

出願の期限や体調管理等には十分気を付けてください。

内定者 J の場合

プロフィール

- 【最終学歴】 大学院卒業見込み 【学年・性別・年齢】 博士 3 年・男・30 歳
【参加した説明会・回数】 WEB 説明会・8 回
【併願先】 国家公務員総合職、民間企業・研究機関
【試験区分】 林学 【専攻科目】 数理生物学

志望動機

研究活動の一環として、環境省の外来種防除事業の話を伺う機会があり、生態学の研究とは違う、自然環境に対する行政としてのアプローチというものに興味を持ったことがきっかけです。専門家だけではなく、環境問題というものをより多くの人々に自分事として捉えて貰いたいと思い、環境省を志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

基本的に対策は過去問演習のみでした。時事や教養問題は範囲が広く対策が難しいので、数的処理などで確実に得点するために、時間配分と問題傾向の把握に努めました。

・専門試験

林学は行政や法律に関わる出題も多く、暗記問題が多いという点では専攻分野に関わらず勉強しやすい科目だと思います。勉強は過去問を解きながら、森林林業白書や専門書で分からないところを調べました。記述試験は多肢選択試験の勉強が出来ていれば問題ないと思いますが、多肢選択試験よりも出題内容に一定の傾向があり、過去問数年分をチェックしておけばかなり楽になると思います。

・二次面接&官庁訪問

面接は面接カードの内容をベースに進行されます。そのため面接カードの内容は非常に重要で、推敲に推敲を重ねました。面接カードを見た面接官が自分にどのような印象を持ち、どのような質問をしてくるか、それに対してどう返答するかシミュレーションを重ねることで、自身の志望動機を整理し、自己PRの方向性を探っていました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

環境省を目指すようになってからは、自分が環境省に入省したら何が出来るかについて考えることが多くなりました。環境省の取り組みを数多く勉強するというよりは、環境省の理念や日本の環境を取り巻く課題について自分なりの解釈をしてみるという試みそのものが有意義だったように思います。

↓アドバイス

就職活動は自分の興味関心など、自分自身を知る良い機会だと思います。私自身、大学などでプレゼンテーションの経験は多くありましたが、自分自身をPRするような機会は意外となかったのだと、就活を機に気づかされました。面接での対話を通して自分が気付いていなかった長所や適性を知る機会にもなると思いますし、民間企業で話題に上がった話が環境省の官庁訪問で役立った部分もありました。何事も気負いすぎると上手くいかないなので、試験勉強も面接対策も楽しみながら取り組んでください。

内定者 K の場合

プロフィール

- 【最終学歴】 大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】 学部 4 年・女・22 歳
【参加した説明会・回数】 自然系 WEB 説明会：3 回、官庁合同業務説明会：1 回
【併願先】 国家一般職（林野庁）、地方上級（林学職）
【試験区分】 林学 【専攻科目】 環境学

志望動機

幼少期から自然とふれあうことが好きで、漠然と将来も自然に関わりたいと考えていました。そんな折に、大学の実習先でレンジャーの方とお会いする機会があり、環境省やレンジャーの業務を知りました。環境や森林について学んでいたことに加え、私が何気なく登っていた山や訪れていた場所が実は国立公園内に多くあると気付いたことで、「自然の保護と活用」を身近に感じ、さらに興味を持つようになりました。自然の恩恵を受けてきたからこそ、日本の自然を守り、その魅力をより多くの人に届けること、また、未来に残していくことに携わりたいと思い、環境省を志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

今年度の受験を決めたのが出願の直前だったこともあり、基礎能力試験の勉強に時間を割くことができませんでした。出題分野の構成や例題は事前に確認しましたが、より自信のなかった専門試験の勉強の方を優先することにしました。本番は、分からない問題があったり時間に追われたりもしましたが、解けそうな問題から解くようにし、とにかく全問回答するよう心掛けました。出題割合の高い分野の勉強や時間設定の中で解く練習をしておけば、自信と余裕をもって挑めたのではないかと思います。

・専門試験

伐木実習や森林組合の林業体験に参加していたことで、林業に関する若干の基礎知識はありましたが、林学専攻ではなかったため、林学の知識を学ぶところからのスタートでした。

多肢選択式の勉強を始めたのは、2021 年の 1 月頃からで、大学の有志による林学勉強会に参加したことがきっかけでした。週 1・2 回、1 回あたり 10 問程度の進捗で過去問を分担して解き、正誤箇所や関連事項を解説しあうという方法で試験の直前時期まで続けました。時間がなくても効率よく知識を得ることができた他、解説を担当した分野への理解がより深まったため、私にとっては良い方法でした。特に『森林・林業白書』や『森林・林業実務必携』、インターネット等で用語や関連事項を調べ、解説しやすいようにまとめていたことが効果的だったと思います。最初は、正誤どころか用語の意味すら分からないような状態でしたが、複数年分を解いていくうちにだんだん理解が深まっていったように感じます。ちなみに、過去問の活用法は人それぞれですが、私の場合は、A4 用紙に縮小印刷し、余白部分に調べたことを直接書き込んでいました。また、調べた書籍の該当のページや HP アドレスをメモしていたのですが、振り返りや情報共有をする際にとっても便利でした。

記述式の勉強に関しては、特別していたことはありませんが、普段から林業について興味を持っていたことや多肢選択式の勉強が役に立ったと思います。ただ、実際の記述に慣れておらず、本番中に焦りを感じたため、余裕があれば最後まで書く練習をしておくとも良いかもしれません。

・二次面接&官庁訪問

私の性格上、何度も練習をしていると返って緊張してしまうため、形式的な面接練習はせず、面接前に頭の中をきちんと整理しておくようにしました。方法としては、自分の経験や考えをマインドマップのように書き出して客観視するというものでしたが、その過程で自身のことを知れたり振り返れたりしたので、苦ではなく、むしろ面白かったです。面接中の会話でも、過去の経験や考え、卒業研究や今後やってみたいことなど、自身に関することが多く、素の自分でその場を楽しむことができました。特に森林のことや登山での出来事など、自分の好きな分野について話せたことも大きかったように思います。また、“国家公務員だからこそ”“環境省だからこそ”“私だからこそ”という自分の思いを、簡潔に伝えられるよう心がけていたことも良かったのかもしれません。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

当初は数年後に受験しようとのんびりしていたため、意識的な過ごし方はありませんが、振り返ってみると、時間を効率よく使えたことや同志の存在が大きかったように思います。何事も早め早めに行動すべきだと日々痛感しているところではありますが、時間が限られている場合でもできることを見つけ、集中して取り組むことが大切だと感じました。また、普段は直前までのんびりタイプの私ですが、協力して林学を勉強する友人たちがいたからこそ継続することができ、とても心強い日々でした。

↓アドバイス

私自身、直前まで進路を決めきれずに迷っていましたが、何事も挑戦だと思い、国家一般職を受験しました。読んでくださっている皆さんも何かに迷うことがあるかもしれませんが、その時はぜひ「迷ったらまずやってみよう」の精神で、目の前の興味関心事を楽しみ、挑戦してみることをおすすめします。私の学生時代のいろいろな挑戦とその経験も、自分の可能性を広げるきっかけになったように思いますし、結果的には面接でも活き、今もこうして内定者の声を書く側になりました。何が正解かはわかりませんが、皆さんにとっての良い縁に出会えますよう、ご健闘をお祈りしております。

内定者Lの場合

プロフィール

- 【最終学歴】 大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】 学部4年・男・22歳
【参加した説明会・回数】 WEB説明会・2回
【併願先】 林野庁、独立行政法人、環境コンサル
【試験区分】 林学 【専攻科目】 群集生態学

志望動機

私は「日本の自然環境に生息する生き物を保全・管理し、後の世代へとつなげていきたい」という思いからレンジャーを志望しました。

生き物観察のため全国を巡るなかで、生き物の保全にはその生息地も含めた保全が必要であると実感するようになりました。とはいえ、生き物の生息地には人間が生業として利用する土地も含まれているため、両者の兼ね合いを考えることが重要です。とりわけ日本の国立公園は保護区と生業のための私有地が混在する、まさに兼ね合いの場所であるように思えました。生物多様性も人間の生活も、両立を目指す上で私にできることは何か考えたとき、レンジャーとしてなにか着地点を探る生き方ができるのではないかと環境省を志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

試験の半年前から過去の「内定者の声」を読み、過去問を数年分解くことが効果的であるとわかったところで満足し、そのまま過去問を解かずに本番を迎えました。本番は頭の片隅に残った中学・大学受験の知識を総動員して及第点を取りにいきましたが、とてもオススメできません。

過去問は早めに請求しておきましょう。私のように「内定者の声」で紹介されていた対策をやってもいけないのにやった気になってしまいそうな人はとくに・・・

・専門試験

試験2ヶ月前から『森林・林業白書』と『森林・林業実務必携』を熟読していました。実務必携の専門的すぎる内容に疲れてしまったときは、実務必携より内容が平易な『森林学の百科事典』を読んで雰囲気をつかみました。過去問は基礎試験と同様の理由で解かずに本番を迎えました。

実際、私の勉強法で返ってきた点数は際どいものだったので、この項は反面教師にしつつ自分に合った勉強法を模索してみてください。

・専門記述

白書のトピックスや事例をよく読んで、頭の片隅に残しておきました。本番では課題文で提示された単語を使用しながら、事例を交えた例証・論証が成り立つように意識しました。

・二次面接&官庁訪問

二次面接も官庁訪問も、身振り手振りを交えて、自分の伝えたいことが最大限伝わるように心がけて臨みました。いわゆる結論ファーストの話し方ができるならそれがベストかもしれませんが、会話の流れや緊張の影響で徹底しきれない場合もあると思います。そういったときに身振り手振りや一人芝居を用いて、言いたいことの雰囲気だけでも掴んでもらおうとしていました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

北から南まで様々なフィールドに出ていたのも、自然環境や国立公園に関する知識の引き出しを多めに用意できていたと思います。これまでに訪れた国立公園がどのような特徴を持っていたか、その特徴は人間サイドにとってどのように受け止められているかを改めて考えていました。

試験勉強のモチベーションが下がってしまったときは、数日何も考えない日を設けてゲームをしたり、外出して虫を眺めたりしていました。後日、危機感混じりのモチベーションが湧いてきてどうにか本番まで保たせられました。

↓アドバイス

学校のゼミでもそれ以外の場所でも、相手の考えに耳を傾け、自らの考えを発することもできる機会にたくさん触れてみてください。異なる立ち位置の、異なる考え方を持った方々と協力する力はレンジャーにとって欠かすことのできないものだからです。自分が何者なのか説明できて、相手の考えに自然と寄り添えるような、いい意味で話好きだときっと楽しいと思います。

また”試験勉強に自信がないからといって志望そのものを諦めてしまう必要はない”とここに記しておきます。どのような学習状況であれ、目指さないことには始まりませんからまずは出願してみてください。「内定者の声」に記されている勉強法を参考にすれば、試験を乗り越えること自体は可能なはずで。計画的な人も、勢い任せの人も、後悔なくやり切れるように頑張ってください。いつか国立公園でお会いしましょう！

内定者 M の場合

プロフィール

- 【最終学歴】 大学院修了見込み 【学年・性別・年齢】 修士2年・男・24歳
【参加した説明会・回数】 自然系採用説明会(WEB)・1回
【併願先】 国家公務員(総合職)・地方上級(林学)・民間企業
【試験区分】 林学 【専攻科目】 保全生態学

志望動機

私は環境に関わる人々の間を調整し、合意形成に繋げていく業務に魅力を感じ、環境省を志望しました。私は幼少期から生物に興味を抱き、野山の生物観察を趣味とすると共に大学や大学院では環境保全に関する研究を行ってきました。その中で、環境に関わる人々が様々な考えを持っていることを学びました。そして、このような意見の異なる人々が互いを理解し、妥協できる点を追究していくことが環境を保全していく上で特に重要だと感じました。このような経緯で私は行政の立場から対立する両者の間を繋ぎ、日本の自然を未来へ残していくことに貢献したいと考え、環境省を志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

過去問を数年分解き、得意な分野や不得意な分野を確かめました。勉強を開始した時期が遅かったため、短期間で改善が見込めない分野には力を入れすぎないようにしました。集中的に勉強した分野は時事で試験対策用の書籍や新聞等を利用しました。試験の時間配分についても、確実に得点が見込める分野から先に解くと共に時間も多く割くようにしました。

・専門試験

多肢選択式

私は基礎能力試験で中々点が取れないと考えていたので、専門試験(多肢選択式)で補うことを目標にしていました。私は林学を主に学ぶ学科に所属していたので過去問に取り組む前に講義用のノートを一通り読み直して基礎的な内容を思い出すようにしました。過去問への取り組み方は解いた後に全設問の選択肢に関して「どの部分が正しくて誤っているのか」という点をなるべく正確にノートへまとめました。また、問題に利用されている統計データが古い場合は最新のデータも参照して現在の状況とこれまでの傾向も押さえるようにしました。分からない用語等は『森林・林業実務必携』、『森林・林業白書』、『省庁のホームページ』を利用して調べました。試験直前は過去問についてまとめたノートを読み返して、基本的な事項については暗記するようにしました。試験中は解き終わっても時間が許す限り選択肢を見直しました。

記述式

『森林・林業白書』を主に利用しました。読みながら重要だと思った所に蛍光ペンでマークしていき、読み返す時もマークされた箇所は特に注意するようにしました。また、多肢選択式で出てきた設問は選択肢がなくても回答できることを目標にしました。試験直前は白書のマークした部分のみを集中的に読んで備えました。

・二次面接&官庁訪問

併願先での面接を経験する中で自身について客観的に説明できることが重要だと感じたため、自己分析をとにかく行うようにしました。私の場合、これまで自分自身について考えてくることが少なかったため、今まで何を経験してきたのか等について深く掘り下げるようにしました。また、官庁訪問では「環境省と他の併願先との違いは何か」ということを意識するようにしました。面接の直前には家族に練習をみてもらいました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

就職活動の序盤に研究との両立で苦勞したため、メリハリをつけて取り組むようにしました。さらに、週に一日程度はどちらも全く考えずリフレッシュする時間を設けるようにしました。就職活動に対する認識も途中からは未知の世界を体験するチャンスだと考えるようにしたことで気持ちが楽になり、自然体で取り組むことができたと感じています。

↓アドバイス

私の就職活動を振り返ってみて、良かったと感じる点は大学での講義をなるべく多く履修していたことです。大学の講義で得た知識の多くが設問を解く上での基礎になりました。もう一点は併願先として地方公務員等を受験したことです。面接の経験を積むことができたことに加え、それぞれの職務のイメージを感じることができたことで自身のやりたいことをはっきりさせることができました。反省点としてはもっと早い段階から説明会やインターンシップ等に参加して、情報を収集して就職活動に備えておくべきだったと思います。私の場合は準備が不十分なことで、不安を抱えることがありました。また、大学院での研究活動との両立も私の課題で、就職活動を十分に考慮した上での余裕をもった計画を早期に立てていればと考えることが時々ありました。最後になりますが、内定者の声を読んでもらった皆様の就職活動の結果が納得のいくものになることを願っております。ここまで読んでいただき、ありがとうございました。

内定者 N の場合

プロフィール

- 【最終学歴】 大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】 学部 4 年・女・22 歳
【参加した説明会・回数】 自然系採用説明会 (WEB) ・複数回
【併願先】 国家総合職・地方上級・大学法人
【試験区分】 林学 【専攻科目】 緑地情報学

志望動機

私は幼い頃から日本の美しい自然や生き物が好きで、将来は野生生物や環境に関わる仕事に携わりたいと考えていました。また、国立公園のインターンシップに参加し、最前線で活動に取り組む方と一緒に仕事をする中で、自然環境はただ保全するだけではなく、それと同時に人による利用と両立させることが必要であることの大切さと難しさを学びました。そこで、全国の様々な地域で最前線に立って自然環境や野生動植物の生態系の保全と、人による利用の両方の調整をする役割を担う環境省の仕事の重要性和魅力を改めて感じ、環境省を志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

公務員講座を利用して授業を受けていました。

数的は講座の問題集を繰り返し解いて、苦手分野を可能な限り少なくできるように勉強しました。日本史は高校で選択していなかったため、頻出分野を重点的に覚えるようにしていました。

・専門試験

白書と実務必携と過去問を利用しました。過去問 10 年分ほどを解き、知識を解説ノートにまとめながら理解を深めました。独学で不安だったため、直近 2 年分の過去問は力試しとして解いていました。

・専門記述

過去問 5 年分ほどの回答を、白書を参考にしながら作っていました。また、白書に載っているグラフや表などの傾向を覚えるようにしていました。解説ノートでついた知識があればある程度は解けると考えていたので、定期的にノートを読み返していました。

・二次面接&官庁訪問

官庁訪問

会話を楽しむことを心がけながら、熱意が伝えられるように意識していました。なぜ環境省なのか、環境省で何がしたいのかを改めて見つめ直し、話したいことを話せるように準備しました。

二次面接

官庁訪問と比べるとあまり力を入れず気楽に受けました。面接カードは一次試験が始まる前から準備しておき、公務員講座の面接練習にも参加しました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

環境省だけでなく、他省庁や地方県庁など様々な説明会に参加しました。多くの方からお話を聞くことで、やはり自分に一番合っているのはレンジャーであると確信しました。

↓アドバイス

就職活動は長丁場で大変なことも多いかもしれませんが、自分の今までとこれからを考え、様々な業界を知ることができる良い機会だと思います。色々な経験をすることで選択肢も広がります。諦めずに挑戦し、頑張ることがこれからにつながると思います。みなさんのご健闘をお祈りしております。

内定者0の場合

プロフィール

- 【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】学部4年・女・22歳
【参加した説明会・回数】自然系採用説明会(WEB)
【併願先】なし
【試験区分】林学 【専攻科目】水利環境学

志望動機

小さい頃から親の影響もあり生き物を捕まえて観察することが好きでした。大学も自然や生き物について学べる学部学科を選び、将来は自然や生き物に関わる仕事がしたいと漠然と考えていました。そのような仕事について調べていたときにレンジャーという仕事を知り、インターンシップをさせていただきました。そこでレンジャーの仕事や国立公園のことについて初めて詳しく知り、インターンシップ後は国立公園を訪れ、その魅力に触れました。大学での学びやインターンシップを通して、自然は私たち人間の心を豊かにするものであり、自分の心身を育んでくれた日本の自然を守り、未来に遺していく仕事に携わりたいと思い、レンジャーを目指すようになりました。

勉強方法

・基礎能力試験

合格点を取れたら良いと思っていたので、各分野の勉強はせずに過去問を数年分、時間を計って解きました。時間配分が大事だと感じたので、私の場合は、知能分野は基本一問5分以内で解き時間内に解けない場合は飛ばす・英語に時間がかかるため最後に解く・知識分野は考えても仕方ないので一問30秒のペースで解く、など時間配分を細かく決めました。

・専門試験

3年生の後期に大学の林学対策の授業を受けて、過去問や参考資料をもらいました。本格的に勉強を始めたのは4年生の4月でした。過去問をひたすら解いて、間違えた問題の重要ポイントを『森林・林業白書』や『森林・林業実務必携』で調べて書き出しながら勉強しました。分かっていない部分は何度も間違えてその度にポイントを書き出すことになるので繰り返すうちに自然に覚えられました。また、文字ではよく分からず覚えづらいものはネットで写真を調べて、どういうものか理解するようにしていました。基礎能力試験の方で点を稼げない分専門試験の方で点を取ろうと考えていたので、専門の方はほぼ全ての分野を勉強しました。

・専門記述

記述は過去問を5年分解きました。『森林・林業白書』を読み込んで近年の林業の動向などを理解しておくことが大事だと思います。

- ・二次面接&官庁訪問

面接は大学の就職支援センターで2回ほど練習をしました。私は自分の考えを言葉にまとめることが苦手なので初回はボロボロでしたが、練習をすることで雰囲気などが分かり、だいぶ慣れることができました。苦手な方や初めての方は練習をすることをお勧めします。

- ・内定までの過ごし方、心がけたこと

勉強のやる気が出ないときは好きなアーティストの動画を見たり昼寝をしたりして休憩を取りながら勉強をしていました。試験が終わった後は自分の研究と大学院試験も控えていたので、そちらの方に完全にシフトして結果については深く考えないようにしました。

↓アドバイス

機会があればインターンシップをすることをお勧めします。レンジャーのさまざまな仕事内容を実際に体験したり職場の雰囲気を知ることができたり、レンジャーの方々のお話もたくさん聞くことができます。面接でもインターンシップの話ができたので良かったと思います。

試験勉強については、直前詰め込み型なので開始時期はあまり参考にならないかもしれませんが、試験まで後数ヶ月で勉強が間に合わないからと諦めることはないと思います。自分の頑張り次第でどうにでもなるという参考になれば幸いです。

内定者 P の場合

プロフィール

- 【最終学歴】 大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】 学部 4 年・男・22 歳
【参加した説明会・回数】 自然系採用説明会 (WEB) ・5 回程度
【併願先】 国家総合職 (環境省)
【試験区分】 林学 【専攻科目】 河川工学

志望動機

小さいころから身近な自然に触れる機会が多く、大学生になってからは国立公園を中心とした多くの土地を訪れたことによって、今ある自然環境を次世代に残していきたいという思いを持つようになりました。それと同時に実際に現地に行ってみなければわからない人と野生動物の軋轢を見聞きし、自然環境保全の難しさを知りました。これらのことから、現場に近い場所で地域の方々の声を聞いた上で、人と自然の最善の関わり方を検討していくことができるレンジャーを志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

数的処理・判断推理を中心に過去問を解きました。範囲が広く、暗記の必要がある教養問題や時事問題はほとんど対策をせず、勘に任せました。数的処理・判断推理は問題数が多く、スピードが求められるため、過去問で数をこなしました。余裕があれば、志望の意思に関わらず総合職の 1 次試験を受けておくと、本番の雰囲気や時間配分などがわかり、少し気楽に受けられるかなと思います。

・専門試験

4 月頃から 3 年分の過去問を解き、計 40 問の各選択肢について、おなじみの「森林・林業白書」や「森林・林業実務必携」などを用いて、誤っている箇所の訂正をしたり、知らない用語をまとめたりしました。毎年似たような問題が多く出題されているため、過去問を複数年分解き、復習をしっかりと行えば専攻外でも合格点に届くと思います。

・専門記述

試験日前日に林野庁の HP で森林・林業に関する情報や政策を眺めていました。配点が低いため、足切りにならなければ良いという考えで臨みました。

・二次面接&官庁訪問

総合職でどちらも経験していたため、その時の反省点を踏まえて臨みました。
基本的に訪問者カードに沿って進められるため、訪問者カードを作成する際に関連するエピソードやそのとき考えたことなどを思い出しながら記入するようにしました。
受け答えの内容はもちろん大切だと思いますが、あまり固くなりすぎずに笑顔で自然体で話すことも

重要な要素だと思います。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

試験勉強や面接対策が行き詰まった時は近所の公園でバードウォッチングをしていました。自然の中で過ごすトリラックスできます。

↓アドバイス

偉そうに勉強方法などを書いてきましたが、正直、大学生活の4年間でなんとなくぼーっと過ごしてしまった方だと思います。就職活動がひと段落ついでから、もっと有意義に時間を使えたのではないかと思います。就職活動で魅力的なエピソードを話すため」というわけではありませんが、やはり大学生のうちに、少しでもやりたいと思ったことには積極的に取り組み、ジャンル・大小を問わず様々な経験を積んでおく方が良いのかなと思います。公務員試験はやるべきことが多く、内定が出るのが民間と比べて遅い場合が多いですが、気張りすぎず、体調に気をつけて頑張ってください。

| 巻末資料

令和4年度入省予定の私たちが公務員試験の勉強の際に使用した資料・参考書をご紹介します。
参考になれば幸いです。

| 基礎能力試験

○基礎能力試験は過去問を使った勉強がオススメ！

速攻の時事（実務教育出版）

基礎能力試験過去問（人事院*）

スーパー過去問ゼミシリーズ（実務教育出版）

畑中敦子ザ・ベストシリーズ（エクシア出版）

| 林学

○林学試験のオトモ、上から順に重要度高し。

林学試験過去問（人事院*）

森林・林業白書（林野庁）

森林・林業実務必携（朝倉書店）

森林学の百科事典（丸善出版）

| 農学

○農学は問題を解きながら進めるのがおすすめ！

スーパー過去問ゼミ 農学・農業（実務教育出版）

農学基礎セミナーシリーズ（全集叢書）

食料・農業・農村白書（農林水産省）

| 農業農村工学

○農業農村工学はこれがあれば問題なし。

資格試験のための農業農村工学必携（農業農村工学会）

食料・農業・農村白書（農林水産省）

***過去問を請求する場合は1～2ヶ月ほど時間がかかる 要注意！**

| おわりに

内定者の声を最後まで読んでいただき、ありがとうございます。この冊子では、今年度の内定者がレンジャーをめざすに当たって心掛けたことを紹介しています。

今年の内定者もそれぞれ様々な動機・経緯で環境省を志望していました。参考に出来るものがあれば大いに活用していただき、その上で自分なりの志望動機や取り組みたい事を固めていただければと思います。今年度は説明会なども基本的にはオンラインで実施しており、遠方にお住まいの方にも気軽に参加して頂けるようになっておりますので、是非ご活用ください。

就職活動においては型にはまった自己PRよりも、みなさまの自然体な姿勢が面接官にも魅力的に映るものだと思います。みなさまそれぞれに得意な事・打ち込んできたものがあると思いますので、そうした魅力を十分に伝えることができれば、必ず上手くいくと思います。

また、去年度・今年度と新型コロナウイルスの影響で官庁訪問の日程や実施方法が変更になっており、来年度の受験を予定している方は、採用HPをこまめにチェックされることをお勧めします。例年一般職の官庁訪問は人事院試験の最終合格発表前に実施されるため、試験勉強と官庁訪問の情報収集を並行して行う必要がありますので、ご注意ください。

最後になりますが、様々な職業の中からレンジャーを選んで頂き、同僚としてお会い出来ることを願っております。

令和4年度環境省入省予定
一般職自然系内定者一同

※環境省について

環境省職員には総合職と一般職があり、それぞれ事務系、自然系、理工系にわかれています。この冊子は令和3年度環境省一般職自然系区分の内定者が作成しています。採用に関する情報に関しては下記HPを参照ください。

○環境省 HP

<http://www.env.go.jp/>

○環境省_採用・キャリア形成支援情報 HP

<http://www.env.go.jp/guide/saiyo/index.html>